

連載 あるといい「防除の知恵袋」(6)

—生産者の視点で「いつ・何を・どれだけ」—

JA 全農 営農販売企画部 TAC 推進課 課長

宗 和弘(そう かずひろ)

はじめに

前回までに、露地栽培や施設野菜等を題材にどのような防除関連情報の提供が行われているか分析を試みてきた。これらの作物の場合、栽植形態や地域によって病害虫の発生様相が異なるため、防除暦などは集落単位など狭い範囲を対象として作成されているか、あるいは、作物によっては作成されていない場合も多々ある。

これに対し、永年作物である果樹の多くは、栽培暦(防除暦)によって明確にスケジュール化されており、防除の情報も含め、作期を通じて必要な情報のほとんどが網羅されている。このため、TACの面談の内容も1年生作物の場合とは大きく異なっているようだ。

今回は、果樹における面談内容を題材に整理を進めてみたい。

I 作物別面談数

平成25年4月～26年3月の1年間におけるTACの防除に関する面談記録のうち、樹種が特定できた面談数は1,042件で、ミカン、リンゴ、ブドウの順に多かった(表-1)。

この防除に関する面談の件数は、果樹に関する1年間の面談数約19,000件に比べれば、約5%に過ぎず、果樹においては、防除に関する面談はあまり行われていないことになる。

この背景には、多くの果樹に防除暦が整備されていることがあり、いうなれば、果樹の暦には、現場が必要とする情報が多く掲載されていることの証明といえるのではないだろうか。

II 面談内容の分類

前回、面談内容の分類の仕方に統一感を持たせる目的で面談内容分類の再整理を試みた。今回の果樹の面談に関する分析にも、この分類に基づき行ったところ、微妙

にマッチしないことがままあった(表-2)。例えば、防除相談が面談内容である場合、露地野菜などの場合は今すぐに対応を教えてもらいたいがための面談となるケースが多いが、果樹の場合、収穫終了後に1年の防除を振り返りながら翌年の防除対策を相談するというケースも多かった。防除相談一つとっても、相談内容に異なりがあるため、よりかゆい所に手が届く「知恵袋」を考えるためには、より深く面談の分類を整理する必要があるようだ。この点については次回以降に時間をかけて整理を進めるので、あらかじめご容赦願いたい。

III 樹種別防除に関する面談内容の分類

果樹の面談内容を整理したところ、落葉果樹とカンキツ・ミカンとで傾向が分かれた(図-1)。

落葉果樹の場合には、水稲や露地野菜のような、病害虫の発生にリンクした大きなピークは認められず、年間を通じてほぼ一定数の面談が行われていた。

一方、カンキツ・ミカンでは、夏と秋に面談件数が多くなっているが、これは、夏マシンの散布喚起やダニ防

表-1 果樹の防除に関する面談件数

作物名	件数
イチジク	2
オウトウ	9
カキ	2
カンキツ	97
ミカン	329
スモモ	27
西洋ナシ	5
ナシ	50
ブドウ	252
モモ	15
リンゴ	254
計	1,042